

## 2023 県議選候補予定者との面談内容【ご本人確認済み】

面談日時 2023.3.26

候補予定者名（ 馬場秀幸さん ）

つな脱担当者名（ 植木史将 ）

### ・3つの検証報告書について

馬：目は通したが、じっくり読んでいる時間がなく、概括的なことしか言えない。

植：生活分科会の報告は簡潔にまとめられている。

馬：生活分科会については異論ない。避難委員会の報告は具体的な話になっていない。大雪の時の避難に触れていないので物足りない。

植：県の正式な機関で出された報告書。物足りなさがあっても、たくさんの課題が明確になった。

### ・停止中と稼働中の事故進展の比較について（2017.10.4 東電提出データを提示）

馬：停止中でも事故はあるんですね。

植：停止中でも事故はあるが、稼働中の危険性はまるで違うという具体的なデータ。同じような危険性なら経済のために動かしたほうがいい、という賛成派が増えているが、そうではないと訴えたい。

馬：賛成派は、危険性があつたとしても、原発を動かす経済的メリットを重視して賛成しているのではないか？

植：賛成派と話をすると、危険なので止めたいという感覚を持っている人がほとんど。

馬：賛成派は、危険なことがわかっていて賛成しているのだから、この比較はあまり意味がないのでは？

### ・3月6日の県議会での最大会派からの慎重意見について（「今の東電が再稼働することは受け入れがたい」など）

馬：内部統制の問題ではない。原発はそれ自体が過酷事故を起こす危険性を内在させている。原発作動する業者が変われば、事故が発生しなくなるというものではない。

植：8年前、4年前の県議選時ではここまで慎重な意見は出ていなかった。

馬：しかし、自民党の考えは、東電ではなくて他の業者であれば原発の再稼働を認めることにもなるので、本当に原発の再稼働に反対なのかどうかは疑問だ。

### ・避難計画について（3つの検証についてと重なる部分あり）

植：国の指針に従って県が策定し、県の指針に従って30キロ圏の全市町村が策定している。

馬：上越市が策定した避難計画は見えていない。報道などによれば、計画が杜撰で、複合災害には何も言及していないとお聞きしている。

植：賛成派からも「絵に描いた餅」という声をよく聞く。

馬：例えばどんなところが問題？

植：30キロ圏の住民を30キロ圏の外に出す、というだけの計画。5キロ圏の住民が避難している間、30キロ圏の住民は避難してはいけない。屋内退避でも被曝する。30キロ圏の外の住民の避難先は決まっていない。計画とは言えない。

馬：その通りですよ。

### ・再エネ促進について

馬：再エネ促進すべき。原発を動かさなくても電気はまわる。原発にかけているお金を太陽光や洋上風力に回すべき。スコットランドでは洋上風力が主力。

植：小水力に期待する声も多い。

馬：新潟県は山もあって、水量が豊富なので適している。

植：再エネ、特に太陽光の欠点である不安定さは、蓄電池が補う。蓄電池の研究開発に集中すべき。

馬：賛成。

#### ・ 柏崎再稼働について

馬：反対である。12年前の過酷事故で一瞬にして私たちの生活や経営、産業が破壊された。もうそのような事故はまっぴらごめんだ。しかも、原料のウランは輸入している。安定したエネルギーとはいえない。再生エネルギーを促進すべき。物価高、電気料金アップに対して即時の対応は難しいかもしれないが、電力の安定供給は科学の力で克服できる。

#### (その他)